

鳥取県中部地震の余震観測 Aftershock observation of the 2016 Central Tottori Earthquake

飯尾能久・京大九大東大地震研鳥取県中部地震余震観測班

Yoshihisa IIO, Aftershock observation group of the 2016 Central Tottori Earthquake of Kyoto University, Kyushu University and Earthquake Research Institute of University of Tokyo

We installed a seismic observation network with 69 high-gain short period seismometers in the aftershock area of the 2016 Central Tottori Earthquake, in order to clarify the stress field and fault strength in the aftershock area. We can determine very precisely focal mechanisms using this dense seismic data.

1. はじめに

2016年鳥取県中部の地震の断層周辺の応力の絶対値や断層の強度を明らかにすることを主な目的として、余震域において、稠密地震観測を行っている。

2. 観測計画と観測結果

図に余震観測点の分布と震源分布を示す。2016年10月22日から11月8日にかけて、余震域とその周辺に3成分地震計(京大・九大担当、満点地震計)10台、3成分地震計(地震研担当、GSX)10台、

1成分地震計(0.1満点地震計)49台を設置した。1成分地震計は12月12日頃まで、3成分地震計(GSX)は2017年3月まで観測を行った。3成分地震計(満点地震計)のみは観測継続中である。一元化震源に比べて約2km浅い分布が得られている。南端側でシャープに分布が無くなっていることが特徴的である。

謝辞：防災科学技術研究所、気象庁、各大学のデータを使わせて頂きました。

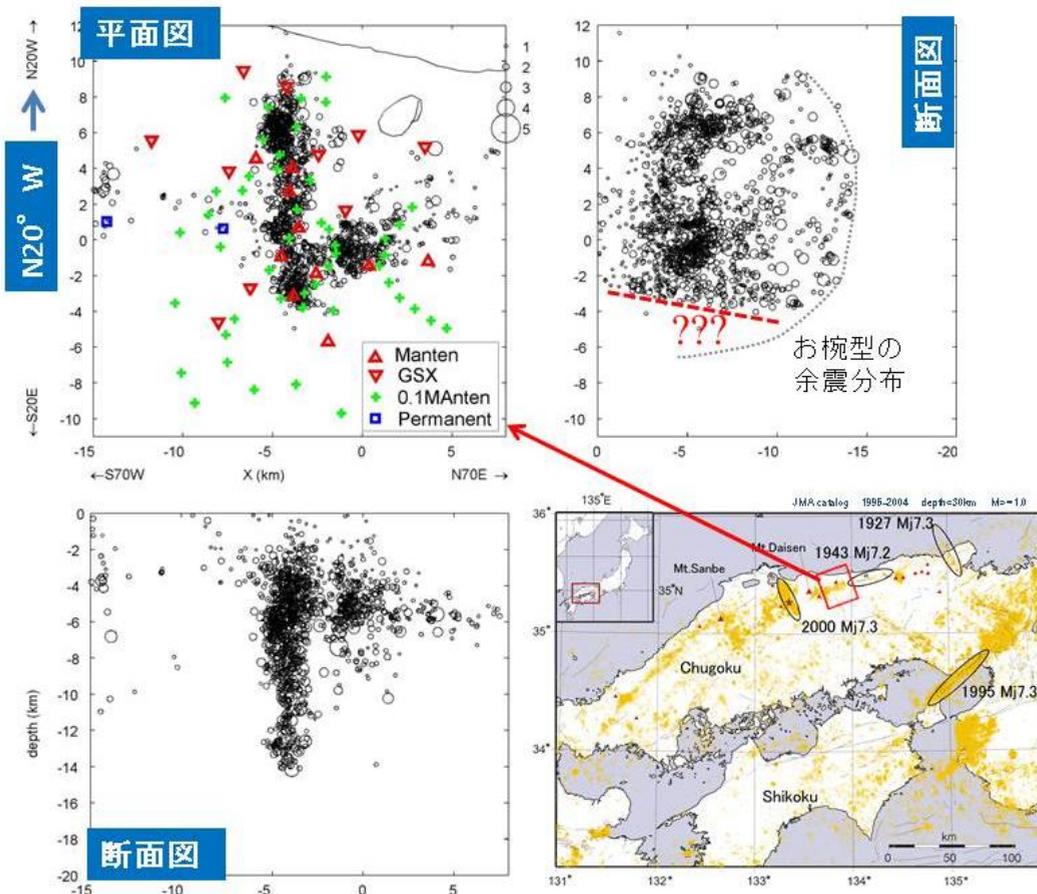


図 2016年鳥取県中部の地震の余震分布(2016 10/22-12/01)と観測点の分布